

学会員（教員）研究動向〔1996.4～1999.3〕

名 前	種 別	書名，論文名等，（掲載書名・誌名（巻号），出版社・発行所）	発行年月
赤井 正二	単著論文	「市民文化の構造変動」(佐々木庸代三・中川勝雄編『転換期の社会と人間』第7章 法律文化社)	1996.6
	単著論文	「地域公共圏とコミュニケーション・メディア複合」 (『AURORA』vol.6 伊丹市都市政策研究所編・発行)	1996.10
	単著論文	「Research of the message Board at Station」 (『立命館大学教育科学研究』11号)	1997.12
	単著論文	「『市民社会』の語られ方」(『立命館産業社会論集』第34巻第1号)	1998.6
荒木 穂積	単著論文	「現代青年・学生の意識と大学教育 - 立命館大学学生の意識実体調査を中心に - 」(『立命館教育科学研究』8号)	1996.7
	単著論文	「アルバイトと「学ぶ能力」の形成」 (『文化的実践としての学生の「学ぶ運動」に関する認知科学的研究』立命館教育科学プロジェクト研究シリーズⅧ)	1997.9
	単著論文	「ノーマライゼーションと障害者の権利」(『地域福祉情報』1号)	1999.1
有賀 郁敏	共 著 書	『体育・スポーツ史研究の展望 - 国際的成果と課題 - 』(不昧堂出版)	1996.5
	共 著 書	『戦後体育実践論 第3巻』(創文企画)	1997
	単著論文	「ミヒャエル・クリューガーのトゥルネン史叙述にみる『権力論』」 (『立命館産業社会論集』第32巻第4号)	1997.3
	単著論文	「近代ドイツにおける身体文化と権力をめぐる一断面」(『月刊フォーラム』)	1997.5
	単著論文	「トゥルネンと身体の規律化に関する一考察 - ドイツ教養市民層の身体をめぐる知を手がかりに - 」(『現代スポーツ研究』第3号)	1997
	翻 訳	ミヒャエル・クリューガー「反動的手段としてのトゥルネン」 - ヴィルヘルム・アンゲルシュタインとトゥルネンの規律化 - 」 (『立命館産業社会論集』第32巻第4号)	1997.3
	そ の 他	「シリーズ 体育・スポーツ史から見えてくるもの - <その1>いわゆる「野球統制令」と「サッカーくじ」法案」 (『かもがわ』No.253)	1997
		<その2>体育・スポーツ史研究に「『鳥島』は入っているか」 (『同上』No.254 (後に『体育・スポーツ研究年報』第10号))	1997
		<その3>教養市民層の形成と知らびに身体への眼差し」 (『同上』No.255)	1997
	単著論文	「19世紀ドイツにおける結社研究の構想 - 1989/49年革命と『トゥルネン協会 (Turnverein) 』」(『立命館産業社会論集』第34巻第2号)	1998.9
	単著論文	「トゥルネン史における1848/49年革命について - 革命150周年記念集会 (バーデン・ヴェルテンベルク) との関連で」(『体育史研究』第16号)	1999.3
	単著論文	Überlegungen zum Spot in Japan. - in: Michael Krüger u. a., Einführung in sportwissenschaftliches Disputieren, Reflektieren und Promovieren, Schorndorf)	1999
	翻訳(共訳)	ミヒャエル・フリューガー「スポーツ科学に対するプロセス=フィギュ	1998.6

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所)	発行年月
		レーション理論の意義について - ノルベルト・エリアス誕生100年によ せて - 」(『立命館産業社会論集』第34巻第 1 号)	
飯田 哲也	単 著 書	『現代日本家族論』(学文社)	1996. 9
	論 文	「対当前日本研究中国社会的的方法的反思」 (『社会学研究』第62期 2 号 中国社会科学院社会学研究所)	1996
	単 著 書	『中国放浪記』(学文社)	1997. 9
	論 文	「問われる家族の絆」(『市政』第46巻 9 号 全国市長会)	1997. 9
	翻 訳	李強「改革解放後の中国社会階層構造の重大な変化」 (『立命館産業社会論集』第33巻第 3 号)	1997.12
	論 文	「再建後の中国社会学の展開」(『同上』第33巻第 4 号)	1998. 3
	論 文	「中国の家族社会学の新しい動向」(『家族社会学研究』第10号 日本 家族社会学会)	1998. 7
	論 文	「生活研究的理論構想」(『社会学視野』中国人民大学社会学系)	1998. 8
池内 靖子	論 文	「シアター / パフォーマンスとジェンダー」 (渡辺和子編『アメリカ研究とジェンダー』に収録, 世界思想社)	1997
	論 文	「『M. バタフライ』と『マダム・バタフライ』 - ジェンダーとオリエンタリズムの (脱) 構築」 (『立命館産業社会論集』第33巻第 1 号)	1997. 6
	翻 訳	ジュディス・E・バーロー編『アメリカ女性劇集: 1900-1930』(新水社)	1998
		アリシャ・S・オストライカー著『言葉を盗む女たち: アメリカ女性 詩論』(土曜美術社)	1990
	そ の 他	「アイルランドで見た『従軍慰安婦』についてのパフォーマンス - 第 4 回国際女性劇作家会議に参加して」(『現代思想』, 青土社)	1997. 9
		「芸術表現に関する国際学術シンポジウムについて - “ ヴィジュアル・アーツの可能性 - ポスト植民地主義とジェンダー ” 嶋田美子 (アーティスト), ピョン・ヨンジュ (映画監督) (『立命館産業社会論集』第32巻第 4 号)	1997. 3
		「アメリカで出会ったフガード」(「地人会」のフガード作品上演パンフ)	1986
	研究発表	“ Postcolonial and Gender Perspective on M. Butterfly ” (韓国, 梨花女子大学アジア女性学センターのフォーラム)	1997. 4.15
	学会発表	演劇 / パフォーマンスとジェンダー (『Asian Journal of Women's Studies, AJWS』)	1997.4
石井 由香	共著論文	石井由香・稲葉奈々子「住宅問題 - 居住の長期化のなかで - 」(宮島 喬・梶田孝道編『外国人労働者から市民へ - 地域社会の視点と課題か ら - 』有斐閣)	1996. 9
	論 文	“ Forward to a Better Life: The Situation of Asian Women Married to Japanese Men in Japan in the 1990s, ” (Graziano Battistella and Anthony Paganoni (eds.), <i>Asian Women in Migration</i> , Quezon City-Philippines: Scalabrini Migration Center)	1996
	共 著	駒井洋編集代表, 石井由香・下平好博・平石正美・若林チヒロ編『新	1997. 3

名 前	種 別	書名，論文名等，（掲載書名・誌名（巻号），出版社・発行所）	発行年月
	単 著 書	来・定住外国人がわかる事典』（明石書店） 『エスニック関係と人の国際移動 - 現代マレーシアの華人の選択 - 』（国際書院）	1999. 2
	共同翻訳	ピーター・ストーカー著『ILOリポート 世界の労働力移動』（築地書館 Stalker, Peter, <i>The Work of Strangers: A Survey of International Labour Migration</i> , Geneva: International Labour Office, 1994. ）	1998. 3
	共同翻訳	アンソニー・フィールディング著「イングランドおよびウェールズにおける移民労働者と階級構造 - イギリスの『黒人』と『アジア系』人口の社会移動に関する縦断的分析 - 」（アンソニー・フィールディング・佐藤誠編『移動と定住 - 日欧比較の国際労働移動 - 』同文館）	1998. 9
	書 評	「駒井洋編『外国人定住問題資料集成』明石書店 1995」（『社会学ジャーナル』第21号 筑波大学社会学研究室）	1996. 3
	書 評	「Eleanor Laquian, Aprodicio Laquian and Terry McGee (eds.), <i>The Silent Debate: Asian Immigration & Racism in Canada</i> , Vancouver, B. C.: Institute of Asian Research, The University of British Columbia, 1998. 」（『東南アジア研究』第36巻第2号 京都大学東南アジア研究センター）	1998.9
	そ の 他	「地方自治体と外国人の住宅・居住問題」（『地方自治の窓（季刊）』第60号（財）地方自治協会）	1996. 4
	そ の 他	「マレーシア・マルチメディア大学 - その野心的な試み - 」（『コンピュータ&エデュケーション』Vol.5 C I E C（コンピュータ利用教育協議会））	1998.11
伊藤 武夫	単著論文	「大衆社会形態と自覚的市民」 （佐々木禧代三・中川勝雄編『転換期の社会と人間』法律文化社）	1996. 6
	単著論文	「石油専売制の実施過程 - 戦時石油統制の一齣 - 」（『立命館大学人文科学研究所紀要』NO.73号所収）	1999. 2
	そ の 他	立命館百年史編纂委員会編『立命館百年史第一巻第三章第一節の四，五』	1999. 3
	辞典項目執筆	『角川 新版 日本史事典』<「石油業」など9項目>（角川書店）	1996.11
稲葉 哲郎	論 文	「情報処理アプローチ：スキーマ理論の適用」 （田崎篤郎・児島和人（編著）『マス・コミュニケーション効果研究の展開』北樹出版）	1996
	論 文	山田一成・平林紀子・稲葉哲郎，「政治広告の受容過程と情報効果」 （平成7年度（第29次）助成研究集（要旨））	1996
	論 文	「変化する景気認識の構造」 （『日経消費経済フォーラム会報』151号）	1997
	論 文	「景気回復期の新聞報道と消費者の景気認識」 （『同上』155号）	1997
	学会発表	How Japanese Get Political Information. (Paper presented at the 1997 Annual Meeting of the American Political Science Association, The Sheraton Washington Hotel, August)	1997
乾 亨	単著論文	「神戸市真野地区復興町づくり」 （『CONTEXT』vol.3，シティウェア研究所）	1996. 4

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所)	発行年月
	単著論文	『『参加』における『合意, 決定』とはなにか - 真野まちづくりから学ぶ『状況のデザイン』の力 - 』(立命館大学震災プロジェクト『阪神・淡路大震災総合研究論文集』)	1998. 3
	プロジェクト	住民参加手伝による, 京都嵐山さくらトイレ建替計画策定: 1997. 3 竣工	1996. 5 ~
	プロジェクト	京都市及・市民との共同によるワークショップの企画・運営	1996. 8
	プロジェクト	震災復興共同建替住宅東尻池コート: 1997年竣工	1997. 8
	プロジェクト	「立江地区共同建替支援チーム」による共同設計・コーディネート	1997.11 ~
	プロジェクト	住民参加手法による千本楽只団地1・2棟建替計画策定: 1999. 5 基本設計完了 地元住民組織及設計事務所との共同によるワークショップの企画・運営, 設計及参加プロセスのコーディネート	1999. 5
	調査報告	(共同)「自主防災組織の構成と活動実態に関する研究報告書」	1996. 3
	調査報告	(共同)「地域住民と行政のパートナーシップによる(防災)まちづくりに関する研究報告書 - 清水学区における実践活動を通して - 」	1998. 3
	共著論文	「しなやかな市民参加型復興まちづくり」(『地域開発』6号42)	1996
	共著論文	「網目状の人のつながりをつくる - 神戸市長田区真野地区にみる<安心>まちづくり - 」(『震災復興の政策科学』有斐閣)	1998. 6
	共著論文	「蘇る下町コミュニティ - 東尻池コート」(『造景NO. 15』建築資料研究所)	1998. 6
	共著論文	「阪神・淡路大震災からの復興 - 長屋の共同再建『東尻池コート』の事業記録」(『調査研究期報 NO. 115』住宅・都市整備公団)	1998. 7
内木場 努	単著論文	「Aspectual verb-keepについて」(『立命館言語文化研究』9巻2号)	1997
	単著論文	「小西友七先生傘寿記念論文集「現代英語の語法と文法」」(大修館書店)	1998. 5
文 楚雄	共 著 書	『楽しい中国語会話』中級テキスト(晃洋書房)	1997.4
	論 文	「平家物語の主語と中国語の主語」(『立命館言語文化研究』7巻3号)	1996. 1
	論 文	「中国語の目的語の位置」(『立命館言語文化研究』7巻5・6合併号)	1996. 3
	論 文	「毛沢東の原点と中国の文化」(『立命館政策科学』別冊)	1996. 3
	論 文	「中国語の助動詞の位置」(『立命館言語文化研究』9巻5・6合併号)	1998. 3
	論 文	「中国の章回小説の章段タイトルの構造について」(『立命館言語文化研究』10巻4号)	1999. 1
	論 文	「双方向による外国語の教授法・習得法について」(『外国語教育におけるFD研究』)(立命館大学教育科学研究所)	1999. 3
	そ の 他	「平家物語」中国語訳「中日新報」に連載中, 1992年7月~97年10月現在	
遠藤 保子	共著報告	「リレー講演 近畿の文化を掘り下げる」(第14回近畿文化大学報告書 主催近畿ブロック知事会)	1996.5
	単著報告	「スポーツ博物館めぐり日本編 フットボールミュージアム, こどものための博物館 キッズプラザ大阪」(『ひすばスポーツ史学会会報』No.41)	1998.2
	共著報告	「『青少年のリーダーシップを活かす』 - 青少年の社会参加・自主活動の事例から - 」(『(財)京都市ユースサービス協会10周年記念シンポジウム報告書』)	1998.3

名 前	種 別	書名，論文名等，（掲載書名・誌名（巻号），出版社・発行所）	発行年月
	単著論文	（財）京都市ユースサービス協会主催） 『舞踊における『劇場』的空間の変遷 - 今日の京都における『劇場』的空間を事例として - 』	1998. 3
	単著論文	（（財）水野スポーツ振興会研究助成金研究報告書 『舞踊における『劇場』的空間の変遷』研究代表者；遠藤保子） 『ダンスのフィールドワーク研究』	1999. 3
	学会発表 （単独）	（日本体育学会編集『体育の科学』Vol. 49 No. 03 杏林書店） 『京都における『オルターナティブ・スペース』としての寺院』	1996.12
	学会発表 （共同）	（舞踊学会第42回大会 早稲田大学） 『舞踊における『劇場』的空間の変遷』シンポジウム司会	1997.11
	学会発表 共同	（スポーツ史学会第11回大会，立命館大学） 『エチオピアの民族舞踊』（日本体育学会第49回大会，愛媛大学）	1998.10
	学会発表 （単独）	『都をどりと男性のまなざし』	1998.11
	学会発表 （単独）	（スポーツ史学会第12回大会，日本体育大学） 『京都の寺院におけるパフォーマンス』（舞踊学会第46回大会，奈良女子大学）同上学会大会 B会場における座長	1998.12
	公演プロデュース	エチオピア民族舞踊団クイーン・シバ芸術団日本公演プロジェクト プロジェクト代表；遠藤保子 97年度国際交流基金助成事業	1997.12
	公演プロデュース	（98年1月11日&18日「大使の国の宝物」；テレビ東京系列30分番組放送） 平和創造プロジェクト エチオ・ジャパンジョイントセッション（エチオピアにて実施）プロジェクト企画・実践 98年度国際交流基金助成事業 （在エチオピア大使館主催「日本文化週間」の一環として実施。99年5月9日 「ドキュメント風の旋律～響け！エチオピアの大地に～」；KBS京都60分番組放送）	1999. 2
奥川櫻豊彦	報告書	科学研究費補助金（基盤研究B）「私立大学に在籍する私費留学生の 居住事情と異文化間コミュニケーションの実態分析」	1997
小澤 亘	論文（単著）	「ルソー—近代国民国家像に対するアンチ・テーゼの提出」 （田中浩編『現代思想とはなにか』龍星出版）	1996. 6
	論文（単著）	「現代青年・学生の社会意識と生活意識」（『現代青年・学生の意識に関 する総合的研究（第2次）』立命館大学教育科学研究所，第1部2章4節）	1996. 3
	論文（共著）	「現代青年の社会参加活動に関する意識調査の意義—動機の社会的 分析の観点から」（『立命館教育科学研究』第9号）	1997. 3
	論文（単著）	「ボランティアと学び」（『文化的実践としての学生の「学ぶ活動」に関 する認知科学的研究』立命館教育科学プロジェクト研究シリーズⅧ）	1997. 9
	翻訳（共同）	『曲がり角にきた福祉国家』（（第1章および結論担当）未来社）	1996. 2
	その他	『書評：京都大学高等教育教授システム開発センター編『開かれた大学 授業をめざして』玉川大学出版部（『大学創造』第9号，高等教育研究会）	1999. 3
加藤 園子	調査報告 単著論文	（共同）「京都市高齢社会対策実態調査報告書」（京都市民生局） 「スウェーデンの福祉と税制 - 高福祉・高負担 - 」 （「家庭科教育」No.42 家庭科教育研究者連盟）	1996 1996

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所)	発行年月
	単 独	「明日の地域ケアシステム (14) 「在宅福祉充実のための課題」」 (『京都民報』 京都民報社)	1996
	単 著	「文献解題『社会事業個別取扱の実際』戦前期社会事業基本文献集55」 (日本図書センター)	1997
	単著論文	「介護問題が投げかけるもの」(『日本の科学者』 Vol.132 No.2 日本科学者会議)	1997
	単著論文	「スウェーデン福祉国家にみる新動向 - 社会福祉供給主体多文化と協同 組合 - 」(『総合社会福祉研究』 No.12)	1997.12
	単著論文	「介護保険と社会福祉 - 介護保険は福祉をどう変質させるか - 」 (『総合社会福祉研究』 No.14)	1999. 2
	調査報告	(共同) 「老人保健福祉計画及び介護保険事業計画にかかる高齢者実態 調査報告書」(吹田市福祉保険部高齢福祉推進室)	1999
加藤 直樹	単 著 書	「障害者の自立と発達保障」(全国障害者問題研究会出版部)	1997
川口 晋一	論 文	「テレビのスポーツと文化の変容 - スポーツ中継番組の構造と視聴 環境をめぐる問題 - 」(『メディアと表現文化に関する総合的研究』 立命館教育科学プロジェクト研究シリーズ4)	1996. 3
	調査報告	「M小学校のボランティアたち」(『阪神・淡路大震災・被災から再生へ - A 街区と住民の記録 - 』立命館大学阪神・淡路大震災復興研究プロ ジェクト社会システム部会)	1996. 4
	研究発表	「震災避難行動と社会階層」(共同発表)(日本社会学会 ; 於琉球大学)	1996.11
		「震災復興過程における余暇活動の実態と役割」 (日本社会学会 ; 於関西学院大学)	1998.11
	書 評	ジョージ・H・セージ, 深澤宏訳 『アメリカスポーツと社会 - 批判的洞 察』(『日本の科学者』 vol.33)	1998. 8
木田 融男	論 文	「日本社会と労働・生活のエートス」 (佐々木庸代三・中川勝雄編 『転換期の社会と人間』 法律文化社)	1996. 6
	研究報告	「“社会” 概念と日本社会」 (産業社会学部国際研究交流シンポジウム 『産業社会の変容と市民社 会の再生』 『立命館産業社会論集』 第32巻第 4 号)	1996. 7 1997. 3
	論 文	「“社会” 概念と共同性」 中久郎編 (『社会学論集 持続と変容』 ナカ ニシヤ出版)	1999. 1
木津川 計	単 著 書	『生き甲斐のゆくえ』(かもがわ出版)	1997. 9
	共著及び論文	『京が甦る』(淡交社)	1996. 7
		『文化の変容と再生』(法律文化社)	1996. 4
		『ちょっといい話・第三集』(新風書房)	1997
		『京都路線バスの旅』(トラベルジャーナル)	1996
		『大阪路線バスの旅』(トラベルジャーナル)	1996
		『定年後』(岩波書店)	1999. 1
	対談・座談会収録	『住井すゑ対話集 1 』(労働旬報社)	1997.11

名 前	種 別	書名，論文名等，（掲載書名・誌名（巻号），出版社・発行所）	発行年月
草深 直臣	単著論文	「体育の戦後改革」(『戦後学校体育実践論第1巻』創文企画)	1997
	単著論文	「体育・スポーツの戦後改革に関する『第一次米国教育使節団報告書』の作成過程」(『体育学研究』第41巻第2号)	1996
	単著論文	「体育・スポーツの戦後初期改革計画におけるC.I.Eの役割」(『体育学研究』第42巻第1号)	1997
	英 訳	「キューバのスポーツ」(ポーラ・パタビーノ,ゲラリン・パイ著) (創文企画)	1999.3
	単著論文	「ドーピングはモラルで律せられるか」(『体育科教育』)	1998.1
國廣 敏文	単著論文	「現代フランスにおける政治的エコロジー運動の生成と展開 - 政党化をめぐるディレンマ - 」(『立命館法学』第245号 [1996年第1号])	1996.6
	単著論文	「紛争」,「国家」(高橋伸一編著『社会科学概論』所収 第7章,第8章,法律文化社)	1997.5
	単著論文	「現代フランスにおけるエコロジー運動の政治社会学 - 運動の担い手の問題を中心に - 」(『立命館産業社会論集』第33巻第3号)	1997.12
	翻 訳 (共訳)	「ボブ・ジェソップ著『国民経済と国民国家の将来とは?』 - レギュレーションの再構築とガヴァナンスの再発見に関する短評 - 」 (『同上』第34巻第1号)	1998.6
	資料紹介	「フランスにおける政治学教育の現状と課題 - ピエール・ファーブル教授のレポート - 『フランスの政治学』」 (『立命館教育科学研究』第9号)	1997.3
桜谷真理子	共著論文	「現代家族の育児実態に関する地域調査報告書 - 大阪市・四日市市・武豊町・多摩市地域を対象として - 」 (「現代家族の育児困難と育児支援のあり方」研究会)	1997
	単著論文	「婦人保護関係施設の現状と課題」 (宮田和明他編『三訂 社会福祉実習』中央法規)	1998.3
	論 文	「一人親家庭の子ども」(日本子どもを守る会編『子ども白書』草土文化)	1996
	論 文	「母子寮」(同上)	1997
佐々木嬉代三	編 著 書	『転換期の社会と人間』(法律文化社)	1996.6
	論 文	「社会病理学的実証研究の理論化に関する諸問題」 (『現代の社会病理』12号,日本社会病理学会)	1997
	論 文	「社会病理現象からみた戦後五〇年」 (『戦後五〇年をどうみるか(下)』人文書院)	1998
	論 文	「家族崩壊の社会学的背景」(四方寿雄編『家族の崩壊』ミネルヴァ書房)	1999.1
	単 著 書	『社会病理学と社会的現実』(学文社)	1998.9
佐藤 春吉	編 著 書	『大学評価と大学創造』(「第3章 大学教育活動と大学自己評価1,2,3」担当 東信堂)	1998.12
	そ の 他	『マルクス・カテゴリー事典』(「生産諸力」の項 担当 青木書店)	1998.3
佐藤 嘉一	翻 訳	R・グラートホフ編著『亡命の哲学者たち	1996

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所)	発行年月
	論 文	A・シュッツ/A・グールヴィッチ往復書簡1939-1959』(木鐸社) 「A.シュッツと現象学 - 『シュッツ=グールヴィッチ往復書簡』に みる - (『社会学史研究』第19号)	1997
	論 文	「他者理解」(日本の社会学シリーズ第二巻『社会学思想』東大出版会)	1997
	論 文	「アルフレッド・シュッツの理論」 (新明/鈴木編『現代社会学のエッセンス』ベリカン社)	1996
	翻 訳	「戦後五十年と日本文化の諸相」(『戦後五十年をどうみるか』下 人 文書院)	1998.3
	調査報告	「移住と社会」研究会『移住と社会的ネットワーク』 (『立命館人文科学研究所紀要』No.68)	1997
篠田 武司	論 文	「レギュラシオン・アプローチと平田氏の市民社会理論」 (『立命館産業社会論集』第31巻第4号)	1996.4
	論 文	「企業社会と新自由主義」 (佐々木嬉代三他編『転換期の社会と人間』法律文化社)	1996.9
	論 文	「スウェーデンにおける労働組織の変化と労資関係」 (『立命館産業社会論集』第32巻第2号)	1996.11
	論 文	「日本型アフター・フォードイズムの危機と企業社会」 (『同上』第32巻第4号)	1997.3
	論 文	「新自由主義ともう一つの蓄積戦略 - 自己求心的な開発 - 」 (小池洋一等編『市場と政府 - ラテンアメリカの新たな開発枠組み - 』 アジア経済研究所)	1997.3
	論 文	「Neoliberalism and the Crisis of The Japanese Style of After-Fordism」 (『立命館国際地域研究』10号)	1997.3
	論 文	「スウェーデンにおける労働関係の変化」(『日本の科学者』33巻4号)	1998.4
	共同論文	「現代世界の「市民社会」思想」(八木紀一郎他編『復権する市民社会論』 日本評論社)	1998.6
	そ の 他	「社会の原理を問い直す」(『日本の科学者』)	1997.2
	書 評	都留重人『科学的ヒューマニズムを求めて』(『日本の科学者』)	1998.12
	翻 訳 (共訳)	T. ニールソン「労働者同一身分協約：統合生産システムの対応 - ス ウェーデンのケース - 」(『立命館産業社会論集』第32巻第2号)	1996.6
	翻 訳 (共訳)	G. ブルーリン「ドイツ - スカンジナビア型労働組織モデルへの日本の 挑戦とその労使関係への影響」(『同上』第32巻第2号)	1996.6
	翻 訳 (共訳)	B. ジェソップ「国民国家の将来：政治の脱国家化および市民社会の統 治化に対する諸限界」(『同上』第32巻第4号)	1997.3
芝田 英昭	編 著 書	『高齢社会への挑戦』(かもがわ出版)	1996.8
	単著論文	「公的介護保険の不透明さ」 (『福祉のひろば』303号, 総合社会福祉研究所)	1996.4
	単著論文	「公的介護保険と障害者」(『視覚障害』144号, 日本盲人福祉研究会)	1996.7
	単著論文	「私たちの社会保障」(『月刊労農のなかま』408号, 全農協労連)	1996.9
	単著論文	「医療保険制度改革と社会保障制度改革の狙い」 (『京都保険医新聞資料版』346号, 京都保険医協会)	1996.12

名 前	種 別	書名，論文名等，（掲載書名・誌名（巻号），出版社・発行所）	発行年月
	単著論文	「規制緩和と社会保障の将来」 （『賃金と社会保障』1203・04合併号，労働旬報社）	1997. 6
	単著論文	「社会保障構造と差別化」(『月刊部落』613号，部落問題研究所)	1996.12
	単著論文	「保育改革と福祉市場化」(『住民と自治』417号，自治体問題研究所)	1998. 1
	単著論文	「介護保険で私たちの老後はどう変わるか」 （『月刊オン・ザ・ウェイ』83号，シルバーライフ協同組合）	1998. 3
	研究発表	「社会保障構造改革と措置制度」 （『社会政策学会・第2回総合福祉分科会』於同志社大学）	1997.3.22
	単著論文	「いま，なぜグループホームか」 （『月刊ゆたかなくらし』通巻199号 全国老人福祉問題研究会）	1998. 9
	単著論文	「社会保障改革と労働組合の役割」(『賃金と社会保障』1238号，旬報社)	1998.11
	単著論文	「社会保障と労働組合」(『住民と自治』428号，自治体問題研究所)	1998.12
	調査報告	『村人のくらしや健康福祉に関する実態調査』(朽木村社会福祉協議会)	1998. 8
	調査報告	『綾部地域活性化調査』(綾部市商工会議所)	1999. 2
	調査報告(共同)	「上中町における保健・医療・福祉一体化の課題」(近畿社会保障研究会)	1998. 2
鈴木みどり	単著論文	「女性とメディア・21世紀へ向けた課題」 （『ウィル』No.2 財団法人あいち女性総合センター）	1997. 9
	単著論文	「参加と対話による探求」(『立命館教育科学研究』第12号)	1998. 6
	単著論文	「メディア・リテラシーとはなにか」(『情報の科学と技術』Vol.48 No.7)	1998. 7
	共 著 書	『メディア学の現在』改訂版（世界思想社）	1997.10
	共 著 書	『メディアがつくるジェンダー・日独の男女・家族像を読みとく』（新曜社）	1998. 2
	共 著 書	『現代広告学を学ぶ人のために』（世界思想社）	1998. 5
	共 著 書	『メディア・コミュニケーション論』（北樹出版）	1998. 4
	単 編 著	『メディア・リテラシーを学ぶ人のために』（世界思想社）	1997. 6
	学会発表	「アジア地域における＜女性とメディア＞の現状と課題，将来プロジェクトの可能性について」(アジア女性コミュニケーション・ネットワーク (ANWIC) 第2回フォーラム（タイ）)	1996.10
	学会発表	「Young People and the Media: What Can We Do about It?」 （国際フォーラム「青少年とメディア」(フランス))	1997. 4
	学会発表	「日本におけるメディア環境とメディア・リテラシー」(F C T 国際フォーラム「メディアと市民・日本とカナダの対話」共催・カナダ大使館，東京)	1997. 9
	学会発表	「日本における子どもとテレビ，家族」(国際シンポジウム『子どもとテレビと家族』A Ge, associazione Italian agenitor (イタリア))	1997.11
	学会発表	「メディアと女性に対する暴力，その実態と勧告」 （「メディアと女性に対する暴力」に関するNGOフォーラム（アメリカ））	1998. 3
	学会発表	「メディア・リテラシー教育の現状」 （第2回テレビと子ども世界サミット（イギリス，ロンドン））	1998. 3
	学会発表	「日本マス・コミュニケーション学会1998年秋季研究会ワークショップ・Vチップ vs. メディア・リテラシー」(東京)	1998.10
	学会発表	「ジェンダー，メディア，メディア・リテラシー」(F C T / A N W I C	1998.12

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所)	発行年月
	そ の 他	国際セミナー・ワークショップ・公開フォーラム, 共催・神奈川県女性会館, 神奈川県江ノ島) 「21世紀の『メディア教育』を考える(平沢茂と特別対談)」 (『視聴覚教育』第51巻10号)	1997
	そ の 他	「テレビと子ども」は世界共通のテーマ」毎日新聞	1998. 7
	そ の 他	「犯罪報道とプライバシー・名誉・その他の人格的利益をめぐって」 (奥平康弘・浜田純一・平川宗信と座談会『ジュリスト』No.1136, 1998年6月15日号)	1998. 6
鈴木 良	論 文	「文化財の誕生」(『歴史評論』)	1996. 7
	論 文	「歴史意識と歴史小説のあいだ - 歴史家は司馬遼太郎をどう評価するか」(『歴史評論』)	1997. 2
	論 文	「真宗教団批判の展開 - 水平社創立をめぐって(その6)」 (『部落問題研究』139輯)	1997. 3
	論 文	「自由法学の誕生 - 岡村司の民法研究について」 (『立命館大学人文科学研究所紀要』65号)	1996. 2
	論 文	「近代日本文化財問題研究の課題について」(歴史評論 No.573)	1998. 1
	論 文	「近代京都における自由主義思想の凍流」 (『立命館大学人文科学研究所紀要』第75号)	1998. 2
	そ の 他	立命館百年史編纂委員会編『立命館百年史』第一巻第二章第一節の一, 同第四節一, 二	1999. 3
須藤 泰秀	論 文	「ゴヤ: 2枚のマハ」 (『基礎演習ハンドブック』立命館大学産業社会学部)	1996
高垣忠一郎	共 編 著	『心の視点 - カウンセリング・トレーニング』(青木書店)	1997
	単 著 書	『子どもの心を聴く』(京都・法政出版)	1998
	単 著 書	『揺れる子どもの心と発達』(かもがわ出版)	1998
	単 著 書	『心の浮輪のさがし方』(柏書房)	1999
高木 正朗	共 著 書	『転換期の社会と人間』(第8章「日本人の『孤』と『個』」 - 20世紀100年の経験 -) 法律文化社)	1996. 6
	共 著 書	『成熟都市の研究』(第3章 - 2「歴史的都心の商家と家族」 法律文化社)	1998. 1
	共 訳 書	K.ホブキンス『古代ローマ人と死』(晃洋書房)	1996
	学術論文	「19世紀東北日本の『死亡危機』と出生力」 (『社会経済史学』61巻5号, 有斐閣)	1996
	研究発表	「近世奥羽地方の人口と家族」(第66回社会経済史学会大会パネル ディスカッション, 東北大学)「18世紀中期仙台藩農村の質物奉公人」	1997
	学術論文	『災害現象の社会学的研究』(第4章「都市災害と宗教・教団」立命館 大学震災復興研究グループ)	1999
	報 告 書	『資料』阪神・淡路大震災と宗教教団の対応』平成10年度科学研究費 (基盤研究B)	1999. 3

名 前	種 別	書名，論文名等，（掲載書名・誌名（巻号），出版社・発行所）	発行年月
高橋 正人	共 著 書	『わかりやすい家族関係学 - 21世紀の家族を考える - 』（山根常男・玉井美和子・石川確信共編 第6章「高齢化社会における家族」ミネルヴァ書房）	1996. 8
	論 文	「高齢者の交通安全意識と行動を規定する身体・心理・社会的要因に関する研究 - 交通規制に対する態度モデル分析の試み - 」（佐川交通財団研究報告論文集）	1996.11
	共 著 書	『老人の心理と援助』（井上勝也責任編集『最新介護福祉全書』8 担当部分 第5章「高齢者と家族」，メジカルフレンド社）	1997. 1
	共 著 書	『和歌山県における高等学校消費者教育の現状と課題 - 循環型社会の概念と消費者意識 - 』（『和歌山大学教育学部紀要』48集）	1998. 2
	共 著 書	安藤喜久雄『若者のライフスタイル』（担当部分 第2章「性」，学文社）	1998. 4
	共 著 書	『老人福祉論』（社会福祉士講座 担当部分 第8章第5節「社会参加・生きがい対策と生涯学習」，中央法規出版）	1999. 4
	報 告 書	（単著）『大学生の老人観に関する意識調査報告書』（奈良県医師会）	1996. 5
	報 告 書	（共著）『和歌山市におけるホームヘルプサービスに関する調査報告書』（和歌山県社会福祉協議会・和歌山県福祉人材情報センター）	1996. 8
	報 告 書	（単著）『香芝市民保健福祉意識調査研究報告書』（奈良県香芝市）	1997. 3
武田 春子	対 談 集	『言葉は社会を変えられる』（宇佐美まゆみ編著，明石書店）	1997
	共 編 著	『多文化社会と表現の自由：すすむガイドライン作り』（明石書店）	1997
	共 編 著	『国際化時代の外国語の学び方』（かもがわ出版）	1996
	単 訳	「第1回授業で何をするか：Barbara Gross Davis著Tools for Teachingより」（『立命館大学教育科学研究』7号）	1996. 3
竹濱 朝美	論 文	「ブランド・イメージ管理における自己概念の意義 - 消費者の自己概念がブランドに評価に与える影響 - 」（『立命館産業社会論集』第33巻第1号）	1997.6
	論 文	「ブランド・イメージと自己イメージの適合性：ブランド評価の構築における自己イメージの活用」（日本流通学会年報『流通』11号）	1998.7
辻 勝次	論 文	「避難行動におけるネットワークと社会階層」（立命館大学阪神・淡路大震災復興計画研究プロジェクト・社会システム部会編『阪神・淡路大震災・被災から再生へ - A 街区と住民の記録』所収）	1996
	学会報告	第70回日本社会学会大会テーマ部会：阪神・淡路大震災と社会学，千葉大学報告題目：「震災研究と社会学」	1997.11.9
	論 文	「自動車労働論と『量産型塾生』（『立命館産業社会論集』第34巻第1号）	1998. 6
	論 文	「社会断層と地域社会」（立命館阪神・淡路大震災復興計画プロジェクト編『震災復興の政策科学』有斐閣）	1998
	論 文	「北淡町富島住民の避難と再建」（岩崎信彦・辻勝次他編『阪神・淡路大震災の社会学 第2巻 避難生活の社会学』昭和堂）	1999. 2
	論 文	「阪神・淡路大震災と社会学」（『同上 第3巻 復興・防衛街づくりの社会学』）	1999. 2
	論 文	「災害過程と避難・再生行動 - 阪神・淡路大震災，4年目の被災地 - 」（『同上 第4巻 復興・防衛街づくりの社会学』）	1999. 3
	論 文	「災害過程と避難・再生行動 - 阪神・淡路大震災，4年目の被災地 - 」（『同上 第4巻 復興・防衛街づくりの社会学』）	1999. 3

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所)	発行年月
	論文	(『立命館産業社会論集』第34巻第4号) 「災害過程と被害・再生格差 - 阪神・淡路大震災, 住建再建を中心に - 」	1999. 7
	解説	(『立命館産業社会論集』第35巻第1号) 「八木正氏の職業労働社会学」(日本労働社会学会編 『労働組合に未来はあるか』日本労働社会学会年報第9号)	1998
	学会報告	「淡路島富島地区住民の避難と再建行動」(関西社会学会一般報告 ; 於金城学院大学)	1997. 5
中井 美樹	研究報告	「女性の職業階層とライフスタイル」 (1997年日本社会学会大会, 於千葉大学)	1997.11
	研究報告	「女性の社会的地位とライフスタイル」 (『社会階層とライフスタイル』1995年SSM調査シリーズ 17巻)	1998
	研究報告	「女性の職業階層とライフスタイル」(同上)	1998
	研究報告	「女性の家庭文化と社会参加」 (『文化と社会階層』1995年SSM調査シリーズ 18巻)	1998
	研究報告	「既婚女性の社会階層と文化的活動および文化的環境」(同上)	
中川 勝雄	著 書	佐々木嬉代三・中川勝雄編『転換期の社会と人間』(法律文化社)	1996
	単著論文	「地域社会変動と住民組織・住民運動」 (岩城完之編著『産業変動下の地域社会』所収, 学文社)	1996
	単著論文	「移民供給村における住民生活と社会構造(その一)」 (「移住と社会」研究会編『移住と社会的ネットワーク』所収, 立命館大学人文科学研究所紀要No.68)	1997
中川 順子	論 文	「現代家族と家族政策」 (佐々木嬉代三・中川勝雄編『転換期の社会と人間』法律文化社)	1996
	論 文	「生活再建過程における家族資源と支援ネットワーク」(『阪神・淡路大 震災・被災から再生へ - A 街区住民の記録 - 』立命館大学阪神・淡路 大震災復興研究プロジェクト社会システム部会(産業社会学部))	1996
	研究発表	「阪神・淡路大震災における家族の再生と生活再建ネットワーク」 (日本社会学会第69回大会 テーマ部会: 阪神・淡路大震災 再生の取り組みと社会学)	1996
仲間 裕子	共 著 書	『転換期のフィロソフィ - 』第二巻「芸術における近代」(ミネルヴァ 書房)	1999. 4
	共 著 書	『美術史のスペクトルム - 作品・言説・制度 - 』(光琳社出版)	1996. 3
	単独訳著	『ドイツ人とドイツ美術 - やっかいな遺産』ハンス・ベルディング著 (晃洋書房)	1998. 5
	単独訳著	『ドイツビデオ - トの30年』(展覧会カタログ, 原美術館)	1997. 3
	共 訳 著	『グラフィック・デザイン全史』フィリップ・B・メグス著(淡交社)	1996. 9
	論 文	「反キッチュとしてのアイロニ - 」 (『立命館大学国際言語文化研究』9巻1号)	1997.10
	論 文	「フリ・ドリヒの近代性の再考」(平成8年度科研補助金(A)(I)研究報告書)	1997

名 前	種 別	書名，論文名等，（掲載書名・誌名（巻号），出版社・発行所）	発行年月
	そ の 他	「現代ドイツ美術 - ボイスからリヒター，シェーンまで」 （『国立国際美術館月報』41号）	1996
中村 正	編 著 編 著 共 編 著 単 著 単 著 単著論文 学会発表 学会発表 学会発表 学会発表	『「男らしさ」から「自分らしさ」へ』（かもがわ出版） 『男たちの「私」さがし』（かもがわ出版） 『男がみえてくる自分探しの100冊』（かもがわ出版） 『家族のゆくえ』（人文書院） 『男らしさからの自由』（かもがわ出版） 「男らしさの文法」（『言語』1998年12月号，大修館書店） 「男性研究への誘い」（日本民族学会） 「「アーリーナ」としての男らしさ分析」（日本社会学会） 「日本における新しい男性のアイデンティティ」 （Association for Asian Studies） 「Men and Masculinity in Japan」 （全米アジア学会第50回記念大会（ワシントンD.C.））	1996. 6 1997. 6 1997. 2 1998. 1 1996 1998 1997. 5 1998 1998. 3 1998. 3
長澤 克重	論 文 共 著 論 文 そ の 他	「産業構造の変化と統計」（『統計学』第69・70号，経済統計学会） 木下滋，土居英二，森博美編『統計ガイドブック [第2版]』 （大月書店） 「学生の「学び」の構造と意識 - 3 回生に関する調査データから - 」 （『立命館大学教育科学研究』第12号） 「学生の「学び」の実態 - 立命館大学アンケート調査から - 」 （京都大学高等教育教授システム開発センター第22回公開研究会）	1996 1998. 3 1998. 6 1998. 6
林 堅太郎	単著論文 共著論文 調査報告 （共同） 共著論文 学会発表 学会発表 そ の 他	「大学と知的イニシアティブ（二場邦彦・地域研究グループ編『京が甦る』淡交社） 「環日本海地域の経済開発に伴う日本海の水質に及ぼす影響」 （金政炫他 Ritsumeikan University IIRAS Working Paper Series，国際地域研究所） 「イギリスの大学における生涯学習」（松野周治共同『立命館教育科学研究』第12号） 「最近の環日本海地域をめぐる研究課題」（『立命館国際地域研究』第14号） 「京都（関西）における環日本海研究の新しい展開」（『環日本海研究』第1号 環日本海学会） Enhancing Socio-Economic Development in the North-East Asia International Region（Ritsumeikan-UBC Joint Research Programme: Study on the Emerging Global Cities in the Asia Pacific International Region） Newly Emerging International Regions in Europe and North-East Asia: Academic Initiatives for Transnational Socio-Economic Development:（Third Report for Ritsumeikan-Sussex Joint Research Programme, Institute of International Relations and Area Studies, Ritsumeikan University）	1996. 7 1996. 6 1998. 6 1999. 3 1996. 6 1999. 1 1998. 5

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所)	発行年月
	調査報告	「新たな地域連携のあり方と大学の役割 - 立命館大学と舞鶴市の連携に関する調査研究事業」(立命館大学衣笠総合研究機構)	1999. 3
	そ の 他	「いま気になる経済用語」 第一回『ビッグバン』(『女性&運動』184号)	1998. 1
	そ の 他	「同上」 第二回『財政構造改革』(『同上』185号)	1998. 2
		「同上」 第三回『企業の社会的責任』(『同上』186号)	1998. 3
		「同上」 第四回「ニューエコノミー論」の勝利? (『同上』187号)	1998. 4
		「同上」 第五回「韓国の経済危機と経済学」(『同上』188号)	1998. 5
		「同上」 第六回「国境を越える挑戦 - 考えたい欧州通貨ユーロの導入 - 」(『同上』189号)	1998. 6
		「同上」 第七回「女性が安心して働ける社会システム (その 1) 」(『同上』190号)	1998. 7
		「同上」 第八回「女性が安心して働ける社会システム (その 2) 」(『同上』191号)	1998. 8
		「同上」 第九回「女性が安心して働ける社会システム (その 3) 」(『同上』192号)	1998. 9
		「同上」 第十回「女性が安心して働ける社会システム (その 4) 」(『同上』193号)	1998.10
		「同上」 第十一回「金融のバブル化と公的支援」(『同上』194号)	1998.11
		「同上」 第十二回「経済社会, そのグローバルなアプローチ」(『同上』195号)	1998.12
東 自由里	論 文	『音声言語教育改革のパラドックス』 (『大阪私立短期大学協会研究報告集』Vol.34)	1997
	研究報告	"The Impact of Western Discourse on Japan's Educational Reform," (国際会議『言語の権利』, ロスキルド大学 (デンマーク) 言語文化学科 及び香港理工大学共催。香港理工大学)	1996.6.22-24
	そ の 他	「コトバが通じない: 創造的コミュニケーションをめざして」(京都新聞)	1998.6.9
	研究報告	「プロテスタント・ミショナリーによる識字教育と民主化政策」 (国立民族学博物館地域研究センター・一橋大学連携研究, 一橋大学)	1998.10
	そ の 他	1997-8年度国際学術研究 (学術調査) 『アメリカ外交の要因としての民主主義』 ・「米国海外伝道局による教育技術援助と民主化政策」 ・「米国ミショナリー事業団の民主的福音の展開」(文部省研究成果報告書)	1999. 3
深井 純一	調査報告書	『阪神・淡路大震災 淡路島北淡町・一宮町 震災調査報告書』 (立命館大学阪神・淡路大震災復興研究プロジェクト室)	1996. 3
	調査報告書	『青少年の意識と農村地域社会のこれから - 第4次阿智村調査報告書』	1997. 3
	調査報告書	『震災復興とまちづくり - 北淡町富島地区の区画整理と住民 - 』 (立命館大学)	1997. 7
	調査報告書	『小さな村の大きな挑戦 - 長野県阿智村廃棄物処分場建設計画に関する住民意識調査第一次報告書 - 』(長野県下伊那郡阿智村)	1998. 5
	調査報告書	『続・小さな村の大きな挑戦 8 カ月後の意識変化を追って - 長野県阿智村廃棄物処分場建設計画に関わる第二次住民意識調査報告書 - 』	1998.10

名 前	種 別	書名，論文名等，（掲載書名・誌名（巻号），出版社・発行所）	発行年月
	調査報告書	（長野県下伊那郡阿智村） 『廃棄物処分場建設計画をめぐる村民101人の直言・提言モデル的住民参加をめざして - 長野県阿智村廃棄物処分場建設計画に関わる第三次住民意識調査結果報告書 - 』（長野県下伊那郡阿智村）	1999. 2
深澤 敦	単 著	「フランスにおける第一次大戦時『行動委員会(PS・CGT・FNCC)』 - 救済・連帯活動の分析を中心として - （上・下）」 （『立命館産業社会論集』第32巻第2号，第32巻第3号）	1996. 9 1996.12
	単 著	「フランス労働運動の新展開 - その特質と展望を中心として - 」 （『唯物論と現代』，No.19）	1997. 7
	単 著	「グラムシ『獄中ノート』フランス語完訳版についての覚え書き」 （『季報 唯物論研究』VOL.23冬（第67号））	1999. 2
	翻 訳 （共同）	ロベール・フランク「フランスの経済，社会，政治文化，記憶に対する第二次世界大戦の影響」(『立命館大学人文科学研究所紀要』No.73)	1999. 2
ジャクリヌ・ベルント	著 書	Phänomen Manga. Comic-Kultur in Japan [マンガという現象 - 日本におけるコミック文化] (Berlin: edition q社，1995年10月発行，200頁) のスペイン語版: El Fenomeno Manga (Barcelona: Ediciones Martinez Roca社)	1996
	論 文	「東欧風のハイ・アンド・ロー - 旧国家社会主義における大衆文化と芸術をめぐる」(『立命館産業社会論集』32巻3号)	1996.12
	論 文	「社会主義における芸術 - 歴史的概略と問題提起」(『政策科学』別冊立命館大学政策科学会)	1996. 3
	論 文	「Japanische Populaerkultur als Forschungsgegenstand」 （『立命館産業社会論集』第33巻第3号）	1997
	論 文	「『アート』としてのマンガ」(『同上』第32巻第4号)	1997. 3
	論 文	Mit Kitsch gegen Kitsch. Zu einer Strategie der japanischen Gegenwartskunst [キッチュをもってキッチュに迫る - 日本の現代美術における一つの戦略をめぐる] (『近代現代日本文化における「キッチュ」 - 可愛らしさの美学』平成7・8年度科学研究費補助金（基盤研究（C）2）研究成果報告書）	1997. 3
	論 文	序文：現代日本文化における「キッチュ」と「かわいい」 『近代現代日本文化における「キッチュ」 - 可愛らしさの美学』 （平成7・8年度科学研究費補助金（基盤研究（C）2）研究成果報告書）	1997.11
	論 文	「Kunstgehaeuse: Ueber den musealen Ort moderner Kunst in Japan」 （『JAPANSTUDIEN, Bd. 9. Muenchen: iudicium』）	1998. 3
	論 文	「Grenzenlos: Yokoo Tadanori」(『Japan-Lesebuch 3: "Intelli". Tuebingen: konkursbuchverlag Claudia Gehrke』)	1998. 6
	論 文	「Comics in Japan」(LEXIKON DER COMICS. Meitingen: Corian-Verlag Heinrich Wimmer)	1998. 8
	論 文	「Zeitgenoessische asiatische Kunst in Japan. Bericht ueber einen Lernprozess」(『Comparativ. Leipziger Universitaetsverlag』3号)	1998. 9
	論 文	「アートとして論じられないアート？嶋田美子のエッチングをめぐる」 （『立命館言語文化研究』10巻1号）	

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所)	発行年月
	翻 訳	「“ Verkunstung ” des Comics. Wo japanische Kunstwissenschaft und Mangastudien sich bislang begegnen」(『thesis. Bauhaus-Universitaet Weimar』Nr.6)	1998.12
	翻 訳	「Mika Kuraya: ‘ Kunst ’ durch Grenzen-Der Maler Kuroda Seiki und die」(Japan-Lesebuch 3: “ Intelli ”. Tuebingen: konkursbuchverlag Claudia Gehrke)	1998. 3
松田 博	共 著 書	「戦後『市民社会』思想と『方法としてのグラムシ』」 (『転換期の社会と人間』法律文化社)	1996. 9
	共 著 書	「A・グラムシーヘゲモニーの政治理論」 (『現代の政治理論家たち』法律文化社)	1997
	論 文	「グラムシ『知識人論ノート』の再検討」 (『立命館産業社会論集』第32巻第4号)	1997. 3
	論 文	グラムシ『獄中ノート』における「順応主義」概念の生成 (『同上』第33巻第2号)	1997. 9
	論 文	L'Attualita del Pensiero di Gramsci in Giappone (『同上』第33巻第3号)	1997.12
	論 文	グラムシとアソシエーションに関する覚え書 (『季報 唯物論研究』17巻61号)	1997.夏季
	論 文	Stato e Rivoluzione passive in Giappone Critica Marxista, n5-6	1997
	論 文	「竹村英輔先生とグラムシ研究」(『日本福祉大学研究紀要』98号)	1998. 3
	共 著 書	「イタリアにおける「自治体社会主義」とグラムシの社会主義像」 (『20世紀社会主義の意味を問う』お茶の水書房)	1998. 4
	そ の 他	Stato e rivoluzione passiva in Giappone in Gramsci da un secolo all' altro. (International Gramsci Society. Rivniti. ROMA. ITALY)	1999. 3
松葉 正文	研究紀行	「ベルリンの冬とラインの春」(『立命館産業社会論集』第32巻第1号)	1996. 6
	論 文	Supplements(NO.2) to My Treatise “ Contemporary Japanese Economy ”, (『同上』第33巻第2号)	1997. 9
	論 文	The Problems in the Dissolution Process of the Private Housing Finance Companies (the <i>Jusen</i>)-from December 1995 to April 1996-, (『同上』第33巻第3号)	1997.12
	論 文	「市民社会と現代日本経済 - 市民社会と企業社会の間 - 」 (『同上』第34巻第1号)	1998. 6
	翻 訳 (共同)	ヨゼフ・フーバー「ヨーロッパにおける持続可能な発展の戦略 - 産業 エコロジーに向けて - 」(『同上』第32巻第4号)(Joseph Huber, Strategies of Sustainable Development in Europe-Towards Industrial Ecology, Paper for the Symposium in Ritsumeikan University on the 2nd July 1996)	1997. 3
	翻 訳 (共同)	ゲルハルト・シュレーダー「社会的市場経済のルネサンス」(『同上』 第34巻第2号)(Gerhard Schröder, Eine echte Renaissance der sozialen Marktwirtschaft. Eckpunkte einer sozialdemokratischen Modernisierungs- und Reformpolitik - Thesenpapier des wirtschaftspolitischen Diskussionskreises, in: <i>Die Zeit</i> vom 19. September 1997.)	1998. 9
	翻 訳	ユルゲン・コッカ「市民社会の困難な成立 - 近代ドイツの社会構造史 - 」	1998. 9

名 前	種 別	書名，論文名等，（掲載書名・誌名（巻号），出版社・発行所）	発行年月
	（共同） 翻 訳 （共同）	『思想』岩波書店（Jürgen Kocka, The Difficult Rise of a Civil Society. Societal History of Modern Germany, in: Mary Fulbrook(ed.), <i>German History Since 1800</i> , Arnold 1997.） カリン・ハウゼン「『女性問題』は常に『男性問題』でもあった - 近代における家族の歴史的 position に関する考察 - 」(『立命館産業社会論集』第34巻第3号 (Karin Hausen, <i>Die "Frauenfrage" war schon immer eine "Männerfrage": Überlegungen zum historischen Ort von Familie in der Moderne</i> . Gesprächskreis Geschichte Heft 7, Friedrich-Ebert-Stiftung, Bonn 1994, 32S.))	1998.12
宮下 晋吉	論 文 論 文 論 文	「近代顕微鏡・光学ガラス発達史(1)—Carl Zeiss社，Schott & Gen.における研究・開発に関する科学技術の社会史的研究—」 『立命館産業社会論集』第32巻第1号） 「レントゲンとX線の発見」(『日本物理学会誌』Vol.51 No.4） 「近代顕微鏡・光学ガラス発達史(2)—Schott & Gen. におけるガラスの研究・開発に関する総合科学技術史的研究—」 (『立命館産業社会論集』第32巻第2号）	1996. 6 1996.4 1996.9
森田 浩平	論 文	「移住とアイデンティティー」 (『立命館大学人文科学研究所紀要』第68号)	1997
門田幸太郎	情報処理研究 情報処理研究	「VISUAL BASICのプログラミング法 1 - その特徴とプログラミングの基礎 - 」(『立命館産業社会論集』第34巻第3号) 「VISUAL BASICのプログラミング法 2 - 配列データの操作 - 」 (『同上』第34巻第4号)	1998.12 1999. 3
柳澤 伸司	共 著 書 共 著 書 単著論文	『世界のマス・メディア法』(「スウェーデン」嵯峨野書院) 『情報化と地域社会』(「地域メディアとジャーナリズム」福村出版) 「スウェーデン社会とメディアのいま」(『新聞研究』日本新聞協会)	1996. 4 1996.12 1999. 1
山下 高行	論 文 論 文 論 文 論 文 論 文	'Life-World, Power and Sports: On the Arguments about the New Theoretical Framework of Sports Sociology' The Pursuit Of Sport Excellence: (The '96 Seoul International Sport Science Congress Proceedings Volume 1", KAHPERD) 「ヨーロッパスポーツ社会学の動向と国際シンポジウム」(菊幸一との共著)(『スポーツ社会学評論』Vol. 4，日本スポーツ社会学会，法政大学出版) 「ピープル：フィットネス・サービスの事業展開」(種子田穰との共著) (『立命館経営学』第35号，立命館大学経営学会) 「スポーツ社会学の可能性：プリティッシュ・カルチュラル・スタディズとスポーツ研究」伊藤公雄，菊幸一，吉見俊哉との共著 (『スポーツ社会学研究』Vol.5. 日本スポーツ社会学会，法政大学出版) 「スポーツをめぐる問題群」(『日本の科学者』日本科学者会議編，水曜社)	1996 1996 1997 1997 1997. 9

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所)	発行年月
	論 文	「スポーツと権力」(『変容する現代社会とスポーツ』日本スポーツ社会学会編 世界思想社)	1998. 8
	論 文	「スポーツのさまざまな国境の越え方」(中村敏雄編『越境するスポーツ』創文企画)	1999
	翻 訳	デーヴィッド・マクレラン『マルクス主義, これまでとこれから』(坂なつことの共同訳)(『立命館言語文化研究』)	1997
	そ の 他	「研究会レポート: 日本スポーツ社会学会国際学術会議「スポーツは世界を変える」報告」(『学校体育』日本体育社)	1997. 5
	そ の 他	「日本スポーツ社会学会国際学術会議」(『体育の科学』杏林書店)	1997. 6
	そ の 他	「世の中探見: グローバリゼーションの中で」(毎日新聞 5月29日)	
	そ の 他	「まじめの支配と近代スポーツ」(井上俊, 亀山義明編『スポーツ文化論を学ぶ人のために』世界思想社)	1999
	そ の 他	「R. グルノー『スポーツの歴史社会学』」(『スポーツ社会学研究』第 6 号, 日本スポーツ社会学会編, 法政大学出版)	1999
	学会報告	'Life-World, Power and Sports' (ソウル国際スポーツ科学会議スポーツ社会学部門, 主催KAHPERD(韓国体育学会), Seoul Olympic Parktel)	1996. 6
	学会報告	'Discussion concerning Needs of the European Sport Sociology in Japan and the Meaning of the Coming International Symposium 1997 Held by the Japan Society of Sport Sociology ' 菊幸一, Joseph A. Maguireとの共同報告), 韓国スポーツ社会学会, 韓国スポーツ社会学会大会特別講演, ソウル大学	1996. 6
吉田 昌子	研究報告	「60-word English Mini Essay実践の報告 - 英語の表現力をつける授業を目指して - 」(『立命館産業社会論集』第33巻第 1 号)	1997. 6
	シンポジウムでの報告	「文学と英語教育」(現代英語文学研究会)	1997夏
リム ボン	単 著 書	「医療生協のまちづくり」(日本生協連医療部会)	1996. 5
	単 著 書	『新三世代交流コミュニティ』(自治体研究社)	1998. 9
	共著論文	「都心コミュニティの活力形成における町衆企業の参加と役割」(『都市研究・京都』京都市企画調整局)	1996.10
	単著論文	「都心居住政策の推進について」『住宅』(日本住宅協会)	1997. 1
	単著論文	「京町家の心意気」(『京都Tomorrow』(vol.3))	1997. 2
	調査研究報告書	「京都市高齢社会対策実態調査報告書」((分担執筆) 京都市民生局)	1996. 6
	調査研究報告書	「住環境整備をめぐる論点」((分担執筆) 日本建築学会都市計画委員会住環境小委員会)	1996. 9
	調査研究報告書	「同和地区における市民参加型まちづくりの在り方」(京都市都市住環境局住環境整備室)	1996. 8
	(単著)		
	調査研究報告書	「同和地区における市民参加型まちづくりの在り方 (2)」(京都市都市住環境局住環境整備室)	1998. 3
	(単著)		
	単著論文	「エスニック文化と地域計画 - 移民コミュニティからの問題提起 - 」(『立命館産業社会論集』第32巻第 3 号)	1996.12
	共著論文	「同和地区における高齢者の生活改善サービスの在り方」(『同上』第32巻第 3 号)	1997.12

名 前	種 別	書名，論文名等，（掲載書名・誌名（巻号），出版社・発行所）	発行年月
	共著論文	「国際コンペ『21世紀・京都の未来』最優秀受賞作：ウルトラモダニズム - 都心再生の指標 - 」（『同上』第34巻第1号）	1998. 6
和田 武	共 著	『環境思想の研究』（創風社）	1998. 8
	単 著	『新・地球環境論』（創元社）	1997.11
	共 著	『このままだと20年後の大気はこうなる（20年後シリーズNo.5）』（カタログハウス）	1997.11
	共 編 著	『地球温暖化防止とエネルギーの課題』（水曜社）	1997.11
	共 著	『地球温暖化を防止するエネルギー戦略』（実教出版）	1997. 5
	分担執筆	田畑忍編『近現代世界の平和思想』（ミネルヴァ書房）	1996.12
	論 文	「地球温暖化防止エネルギーシナリオと住民の役割」（『地域開発』第414号 日本地域開発センター）	1999. 3
	論 文	「地球規模で捉えた環境負荷提言のあり方」（『公共建設』第156号 公共建築協会）	1998. 7
	論 文	「高等教育における環境教育の現状」（『環境教育』Vol.6，No.1，日本環境教育学会）	1996
	論 文	「持続可能な生産体系への転換の胎動 - 再生可能エネルギー利用・資源循環型生産体系実現を目指す動向と課題 - 」（『大阪の科学者』No.73）	1996
	論 文	「庄内川水系の水質（2）新川の現況」（『一般教育論集』10号1）	1996
	論 文	「温暖化防止を目指すデンマークとドイツのエネルギー対策」（『日本の科学者』Vol.32，No.3，水曜社）	1997. 3
	論 文	「一般教育としての環境教育の現状と課題」（『大学教育学会誌』Vol.19，No.2）	1997.11
	論 文	「環境保全のためのエネルギー政策」（『生活協同組合研究』）	1997
	論 文	「地球温暖化防止社会への展望」（『環境教育』Vol.7，No.1）	
	論 文	「大学における一般教育としての環境教育に関する研究」（『I. F. Report』No.24）	1997
	学会発表	「住民所有制度による再生可能エネルギーの普及促進」（日本学術会議50周年記念・第48回理論応用力学講演会「パネル・ディスカッション 再生可能エネルギー」）	1999. 1
	学会発表	「地球温暖化防止エネルギー・シナリオの提案」（第12回総合学術研究集会）	1998.11
	学会発表	「デンマークとドイツの環境保全型エネルギー政策と自治体の取り組み」第四回全国地方自治研究集会（大阪市中央公会堂）	1997
	学会発表	「環境保全型エネルギー生産手段の市民所有の動向と社会的意義」第23回日本環境学会（東京経済大学）	1997
	学会発表（共同）	「庄内川水系における河川水汚染の現状」第22回日本環境学会	1996
	学会発表	「持続可能な社会への移行過程に関する一考察 - 持続可能な生産体系への転換がもたらす市民の生産関与について - 」第22回日本環境学会	1996
	学会発表	「デンマークとドイツにおけるエネルギー政策と二酸化炭素排出抑制対策」第11回総合学術研究集会（琉球大学）	1996
	そ の 他	解説：「地球温暖化 - その原因，影響と防止対策」（『月刊公民館』490号）	1998. 3
	そ の 他	解説：「風力発電とその可能性」（『民医連医療』No.307）	1998. 2
	そ の 他	解説：「地球温暖化防止のエネルギー対策を考える（2）」（『理科教室』第41巻，第11号（No.523）（科学教育研究協議会））	1998.11

名 前	種 別	書名，論文名等，(掲載書名・誌名(巻号)，出版社・発行所)	発行年月
	そ の 他	解説：「地球温暖化防止のエネルギー対策を考える(1)」(『理科教室』第41巻，第10号(No.522)(科学教育研究協議会))	1998.10
	そ の 他	「地球温暖化防止のためのエネルギー対策」 (『月刊保団連』 No.548)	1997. 7
	そ の 他	「地球規模の環境破壊の現状はどうなっているか」 (『教職研究』 6 月増刊号)	1997
	そ の 他	「これでいいのCOP3・和田武立命館大学産業社会学部教授に聞く」 (『ネットワーク京都』 第106号)	1997
	そ の 他	「環境学とその意義」(『人間と環境』 Vol.22，No.3 日本環境学会)	1996